

# マッチポイント

2007(平成19)年5月26日鑑賞(ユウラク座)

★★★★



監督・脚本＝ウディ・アレン／出演＝ジョナサン・リース・マイヤーズ／スカーレット・ヨハンソン／マシュー・グード／エミリー・モーティマー／ブライアン・コックス／ペネロピー・ウィルトン（アスミック・エース配給／2005年イギリス映画／124分）

……貧しい出身でも、実力がありそれに運が伴えば、たちまち上流階級の仲間入り。そして美しい妻を手に入れ、義父の会社の幹部に……。こんなサクセスストーリーにもかかわらず、男は魅力的な女がいると愛か愛欲かに悩むもの……。？ 小説でも映画でもよくある「三角合併」ならぬ「三角関係」モノだが、後半はがぜんサスペンス色が……。妊娠しない妻と妊娠してしまった愛人の皮肉、愛か愛欲かをめぐるギリギリの決断、そして人間の「罪と罰」……。見事なストーリー構成の中で展開される数多くのテーマに注目し、楽しみながら、じっくりと考えてみたいもの……。

## 面白い設定 その1——成り上がり者 vs. お坊っちゃん・お嬢サマ

この映画はわかりやすく面白い設定が多い。その第1は、2人の成り上がり者、すなわちクリス・ウィルトン（ジョナサン・リース・マイヤーズ）という男とノラ・ライス（スカーレット・ヨハンソン）という女 vs. 資産家のアレック（ブライアン・コックス）を父にもつヒューイット家の兄（お坊っちゃん）トム（マシュー・グード）と妹（お嬢サマ）クロエ（エミリー・モーティマー）という対比されたキャラの設定。

アラン・ドロンの代表作である『太陽がいっぱい』（60年）も、お坊っちゃんと貧乏人の野心家という対比が面白かったが、そこで興味深いのは、良家のお坊っちゃん・お嬢サマは、あくまでお坊っちゃん・お嬢サマだということ。つまり、貧乏人の成り上がり者がどんな野心をもち、何を狙っているのか、またそのためにどんな計算をして、どんな仕掛けを企んでいるのか、などということにはトンと気づかないもの

だということ……。

トムは婚約相手だったノラを母親の反対によってあっさり諦め、次の候補者の女性と丸く収まっているうえ、クリスに対しても好意的に応援するだけで、何の疑いももっていないよう。また、クリスの妻となったクロエも同じで、クリスと結婚した後は何とか早く妊娠したいと願うばかりで、亭主のクリスの様子が何となくおかしいと気づいても、それは浮気しているからではとか、私に対する愛情がなくなったのでは、と普通の女性のように猜疑心がエスカレートしていかないところがお嬢サマ……？

これに対して、この映画の主人公である野心家クリスの計算高いことやそのための演技力、交渉力、弁解力のしたたかさはまさに天下一品。これこそ貧乏人からの成り上がり者の1つの典型……？ もっとも、自分のセクシーさや自分が男にとって特別な女であることを自覚しているノラの方は、他方で女優になりたいという夢もっているため、資産家の男と結婚しようという野心は、この映画ではあまり表に出ていない。そのため、あっさりとトムと婚約を解消してしまったのは、大いに意外……。もっともこれは、クリスを主人公にした物語をメインにしたための脚本上の必要性であって、仮に『マッチポイント2』でノラを主人公にすれば、ノラの野心が露骨となり、ノラがトムと結婚する上で邪魔になる者が登場すればそれを消してしまうというような犯罪が起こっていたかも……？

それはともかく、この映画は、第1にそんな4人のキャラの対比が面白い……。

## 面白い設定 その2——愛 vs. 愛欲

妻をとるか愛人をとるか、それが問題だ、と悩む男をテーマにした小説や映画はたくさんあるが、この映画はまさにそれ。しかも既に70歳になるにもかかわらず(?)、巨匠ウディ・アレン監督はスカーレット・ヨハンソンという「お好み」の女優を起用できた喜びのためか、そんな男の悩みをさらに大胆かつセクシーに推し進め、クロエに「私は男にとって特別な女よ」という大胆なセリフを語らせたうえ、クリスをして「愛をとるか、愛欲をとるか」の悩みを大胆に友人に告白させているところが面白い……？ こんな悩みをもち、この映画のようにギリギリの局面まで追い込まれ、そしてある1つの重大な決断をしなければならなくなるというのは、男にとって大いにヤバイこと。しかし逆に、そこまで男の愛欲をかき立てるノラの女としての魅力とは一体ナニ……？ スカーレット・ヨハンソンのトレードマークとも言える、いかにも好

色そうな厚ぼったい唇はたしかにセクシーだが、ホントのスカーレット・ヨハンソンのセックスにおける魅力はその何十倍……？

### 面白い設定 その3——マッチポイントとは……？

この映画のタイトルとなっている『マッチポイント』とは、テニスやバレーボールの試合でよく使われる最後の得点という意味。つまり、あと1点をとればゲームの勝敗が決まるという最終局面での痺れる場面という意味だ。

映画の冒頭、テニスコートのネットが大映しにされ、そのネットを挟んでボールが行き来するシーンが登場する。そして、何回目かのラリーの後ネットに当たった球は……？ これが相手方コートに落ちるかそれとも自分のコートに落ちるかによって、勝敗は大違い……。

そんな象徴的なシーンを思わず思い出させるシーンが映画の終盤近くになって登場する。それは、クリスがノラの向かいの部屋に住むイーストビー夫人から盗んだ（強奪した？）品々を川に投げ捨てる際、最後に投げた指輪が川の中まで届かず、柵の上に当たって川の手前に転がり落ちてくるシーン。こうなれば、その指輪を通行人の誰かが拾うことは確実……？ 指輪が川の中へ落ちるのか、それとも柵に当たって跳ね返ってくるのか、それによって1人の男の人生は大きく変わるかも……？ そんなウディ・アレン監督の、おしゃれで心憎い演出に大いに感心……。

### 面白い設定 その4——『罪と罰』……？

ドストエフスキーの『罪と罰』は世界最高の小説と言っても過言ではないが、何せその哲学的世界は深遠でわかりにくいもの……？ したがって、テニス一筋で頑張ってきた青年クリスが、こんな文学作品を愛読しているとは到底思えないのだが、それを読んでいる彼の姿が登場するのは一体なぜ……？

トムのテニスコーチとして紹介された後、とんとん拍子でクリスがヒューイト家の中に入り込んでいくことができたのは、1つはクリス自身のさわやかな魅力のおかげ。現にクロエはクリスを一目見た時からホレ込んでしまったようだし、トムもずっとクリスに対して好意的。ちなみに、父親のアレックがクリスを気に入ったのは、お坊っちゃんまの長男トムにはないクリスのハングリー精神を善意に解釈したため……？

ところが実は、そこにはクリスのしたたかな計算が張りめぐらされ、さまざまな演

出があったことをヒューイット家の人たちは誰も気づかなかったよう……？ 母親のエレノア（ベネロピー・ウィルトン）は、売れない女優業にこだわるトムの恋人のノラには用心深く否定的だったが、ノラ以上にヤバイかもしれないクリスに対してはあまり警戒しなかったよう……？

『罪と罰』においては、貧乏な学生ラスコーリニコフは金貸しの老婆を殺すことは罪ではないと考えてある行動に及んだが、その結果彼が受けた罰は……？ そして、この映画においてクリスは、愛と愛欲の間で悩み、最後のギリギリの決断の中である行動に及んだが、さてその罪は、そしてその罰は……？

### ■妊娠あれこれ……

5月22日付読売新聞は、中国の広西チワン族自治区にある博白県の村で役場が焼き打ちされるという暴動が発生したことを報道した。その原因は、それまでの一人っ子政策への対策が甘かったと批判された村幹部たちによる、「一人っ子政策」のための墮胎強要や厳しい罰金徴収などに対する村民の反発が強まったため。また日本では、向井亜紀の代理母問題のように、近時不妊で悩む夫婦が増えているよう……。

この映画においても、良家のお嬢サマとしてすんなり自分の希望する男性クリスと結婚したクロエの唯一の悩みはなかなか妊娠しないこと。不妊治療の様子は映画の中では明らかにされないが、きっとそれもしていたことだろう。また映画の中では、朝食後出勤前のセックスをクリスにねだったりと、かなりの努力をしていたよう……？ たしかに、クリスも妻クロエに対して果たすべきセックスは果たしているものの、それは彼の言葉によれば「お務め」であり、自分が望むセックスのお相手はノラだけだったよう……？

ネット情報によると、日本人は性生活に淡泊で、夫婦間のセックスの回数は1年間で平均45回。「絶倫国家」ギリシアの138回に比べると3分の1らしい。クリスはノラから求められてそれなりの回数はお務めしていたのだけれど、他方で自ら望むセックスをノラとの間で再三くり返していたから、ノラがなかなか妊娠しなかったのはひょっとしてクリスの回数過多のせい……？

そんなクリスだったから、ある日突然ノラから「妊娠したの」と告げられた時はビックリ。「一体なぜ……？」と問い詰めたが、それに対するノラからの「私が危険日だと言ったのにあなたが無理矢理……」と反論されると、所詮悪いのは自分だからど



© JADA PRODUCTIONS 2005

うしようもない。しかし、望む者には与えられず、望まない者に与えられるという皮肉な結果をどう理解すればいいの……？

### ■ スカーレット・ヨハンソンの前半と後半は別人……？

『キネマ旬報』2006年9月上旬号は、23頁から58頁にわたって「あなたはウディ・アレンを本当に知っていますか？」という「巻頭特集」を組み、『マッチポイント』公開前にウディ・アレンのおさらいをしていた。過去発表した36本中30本がニューヨークを背景にしているウディ・アレンが70歳にしてこの常識を打ち破ったのが、この『マッチポイント』。そして、ダイアン・キートン、ミア・ファローのような「きれいで知的ないい女」タイプのミュージズとして、今回ウディ・アレンが惚れ込んだ美女がスカーレット・ヨハンソン。

したがって、映画前半このスカーレット・ヨハンソンがスクリーンいっぱい振りまく魅力は相当なもの。ウディ・アレン監督はあまり露骨にセックスシーンを見せないものの、スカーレット・ヨハンソンの豊満な肉体を駆使した性的魅力はそりゃ大したもの……？ ところが、前半ではトムの恋人として、またクリスから関係を求められる女として得意の絶頂をきわめるのかと思っていると、映画後半にはそのスカーレット・ヨハンソンが日陰の女として、阿修羅の如き女の恐さをプチまけることに……。

そりゃ、望んでもいない妊娠をした挙げ句、「今日は妻に話をする。妻と離婚する」と毎日言い逃れの言葉を聞かされるノラの身になれば、怒り狂うのも当然……。それにしても、私に言わせれば、スカーレット・ヨハンソン演ずるノラはよくここまでクリスの問題先送りだけのインチキ言葉に従ったもの……。「今日は私が直接奥さんに話す」とノラは何度くり返していたことか……。前半と後半でここまで別人のように変わる役を見事に演じたスカーレット・ヨハンソンの演技力にはもちろん感心だが、ある意味女の哀れさもしみじみと……。

### ハイライトシーンに向かって着々と……

ヒューイット家の当主アレックは仕事もバリバリだが、趣味の世界も充実している。また、家族を愛し、週末の時間も大切にしている理想的な父親。そんな彼の1つの趣味が、別荘地に出かけた際の猟。将来経営陣の1人に加わるべきクリスは、そんな趣味も嗜むべしという彼の主義に従って、見よう見まねで猟銃の撃ち方を教わっていたが……。

人間何でもやっていたら無駄なことはないもの。妻とその家族をとるべきか、それとも離婚してノラをとるべきかで悩んでいた(?)クリスは、ついにある日重大な決断を……。そんな彼が足を運んだのは猟銃を収納している部屋の中。テニスのラケットを入れる大きなバッグの中にこれを収納したクリスは、今日はテニスの練習をした後、久しぶりに妻クロエと一緒にミュージカルを鑑賞する約束。しかしさて、クリスは何のために猟銃を……。そして、その犠牲となるのはノラ、それともクロエ……。常識的に考えればそれはノラだが、なぜクリスは猟銃を……？

さすがテニスプレイヤーとして名を馳せ、テニスコーチとしても才能を発揮し、かつビジネスマンとしても有能さを誇っているだけあって、クリスがたてた計画はかなり用意周到なもの。そんな彼の計画のとぼっちりを受けたのは、ノラのすぐ前の部屋に住んでいたイーストビー夫人。さあ、突然サスペンス色を濃くしながら、ハイライトシーンに向けてどんな展開が……？

『太陽がいっぱい』は完全犯罪であったはずにもかかわらず、なぜか死体が海から浮び上がってくるというラストシーンが印象的だったが、さてこの映画は……？

## ロンドンの警察は甘チャン……？

イーストビー夫人が自分の部屋の中で猟銃で撃たれ、部屋の中は荒らされていた。さらに、ノラは自分の部屋の前で猟銃で射殺されていた。こんな現場の状況を見れば、警察が推論するストーリーは容易に想像がつかず。つまり、それは犯行の主たる目的はイーストビー夫人であり、ノラはたまたまエレベーターから上がってきたところで犯人と出くわしたためにとぼっちりを受けた被害者というものだ。それでもロンドン警察から呼び出しをうけたクリスは、一瞬ヒヤリとしたに違いない。また「あなたとノラとの関係は？」「あなたが最後にノラと会ったのは？」と質問された時、あなたならどう答える……？ ノラの部屋の中にあったノラの日記を押収していたロンドン警察は、この質問に対するクリスの答えの虚偽性をはっきりと認識し、クリスに対して疑いの目を向けたが……？

この映画を観ていると、ハリウッド映画によく登場するニューヨーク市警や日本映画によく登場する警視庁に比べると、ロンドン警察がいかに甘チャンかと思ってしまうこと確か……？ すなわち、2人の刑事のうち職務に熱心な1人は、夜中にパツと目を覚まして「犯人はクリスだ。クリスの主たる目的はノラで、イーストビー夫人はそれを偽装するための犠牲者だ」と推論したのだが、同僚の刑事から第2の殺人事件が発生したこと、そしてその犯人がイーストビー夫人の指輪を持っていたことを指摘されると、たちまちギャフン……？

少なくとも、妻か愛人かで悩んでいたクリスには、ノラ殺害の動機があることは客観的に明らかなのだから、ロンドン警察はもう少し突っ込んで捜査しなくっちゃ……。また、物的証拠としてヒューイット家に猟銃があることもはっきりしているのだから、それを精査すれば何らかの物的証拠が発見できるのでは……？ もちろんこんなロンドン警察の甘チャンぶりは、映画上だけの話だろうが……。

## この映画はハッピーエンド……？

とにかくこの映画は、4人の男女を中心として、人間（男女）の愛と情熱そして出世欲と肉欲などのあり方、さらにその結果行き着く犯罪の中での人間の罪と罰が、実にわかりやすくかつスリリングに描かれているから面白い。警察の調べは、第2の殺人事件が発生した結果、イーストビー夫人に対する薬物絡みとモノ盗り絡みの強盗殺

人事件と、偶然それに巻き込まれたノラの殺人事件として処理された様子……。

そんな中、今日は両親の家でえらくクロエがはしゃいでいる。そしてクリスと共にそこで発表されたのは、クロエがめでたく妊娠したということ。さらにシーンが変わると、今日は、無事誕生した男の子を中心に両親の家で楽しく語らうクリスとクロエその他のヒューイット家の面々が……。これですべてめでたし、めでたし。したがって、この映画のラストはハッピーエンド……。

『キネマ旬報』9月上旬号の対談記事を読んでいると、「この映画を見たある人が、『ハッピーエンドだった』と言っているのを聞いて愕然としてしまった」という発言がある。もし、あなたがこの映画を観てハッピーエンドだと思ったとしたら、よほどあなたの映画鑑賞眼を反省しなければ……？ すなわち、この映画のテーマの1つが、ドストエフスキーの『罪と罰』であることをお忘れなく……。

### 日本版『マッチポイント』のミュージズは断然米倉涼子

この映画は脚本もウディ・アレンが書いており、2006年第78回アカデミー賞脚本賞にノミネートされたものだから、面白いのは当然。そしてストーリーの骨格がしっかりしているし、登場人物のキャラも明確だから、舞台をロンドンから東京に移し、日本版『マッチポイント』をつくろうと思えばすぐにできるはず……。もともと、日本ではいくら経済界の大物といっても、別荘地で猟銃を撃っている人は少ないかも……。しかし、先般キムタク主演で大評判を呼んだテレビドラマ『華麗なる一族』では、万俣家は猟銃を使って猟をしていたから、猟銃を使うパターンをそのまま踏襲してもいいのかもしれないが、やはり何らかの工夫がほしいもの……。

そんな構想を練れば、ストーリー構成もさることながら、面白いのはキャスティング。その最大の焦点はノラ役を誰が演じるかだが、これは何といっても、『黒革の手帖』以来悪女役がハマリ役となった米倉涼子でキマリ……。かつての恋人、市川海老蔵が佐藤江梨子、高岡早紀、果ては現在司法試験勉強中でテレビ朝日の社員だった2歳年上のA子さんなどと次々と浮名を流す中、米倉涼子は海老蔵に何の未練も残すことなく、「海老蔵なんて過去の男よ」と淡々と語っているというからさすが……。ウディ・アレン監督に相当する日本の監督が誰なのかはよくわからないが、それに相当する巨匠には、是非米倉涼子を起用した日本版『マッチポイント』をつくってもらいたいものだが……。

2007(平成19)年5月26日記